

恐怖におののいた小島村煉瓦工場騒動 れんが

明治43年(1910)5月14日、小島村の人々を震え上がらせる事件が起きました。当時、岩越鉄道(現在の磐越西線)建設のためのトンネル煉瓦製造工場が5ヶ所あり、その1つが小島村にありました。久保組・稲葉組・細田組・小沢組などがそれぞれに工場を持ち、煉瓦作りをしていました。この中で1番大きいのが久保組でした。煉瓦の材料の粘土は同村の近田という所から得ていましたが、粘土を焼く燃料の松は必要不可欠なもので購入先を見つけてはそれぞれ購入していました。

ところが、小島村が共有林の松林2町歩(約20,000㎡)という大口を稲葉組に売却したのです。これを聞きつけた久保組は怒り狂います。もともと稲葉組と久保組は対抗意識が強く野沢町の料理屋などで衝突していた間柄ですから、久保組に火が着いたのです。松林を売却した小島村の幹部数人にその矛先を向け、幹部の家の軒先に置いてあった、村の大事な消防組第3部の消防ポンプを壊したのです。これを見た第3部長が半鐘を乱打し、消防組員を招集して対立しましたが、久保組はこん棒などで消防組員に殴りかかるなどして重傷者が出るまでになりました。勢いにのった久保組は、こん棒の先に石油をしみ込ませた布綿を巻き、火を着けて逃げ帰った消防組員を探して一軒一軒家々を回ったので村人は恐怖におののきました。

報せを受けた野沢派出所と尾野本駐在所から警官が駆けつけましたが、多勢に無勢で抑えられず、坂下町の本署(当時、野沢・尾野本は坂下と同じ河沼郡でした)に出動を急報しました。やがて坂下本署から署長以下警官数十名が駆けつけ、久保組の者を家宅侵入罪・銃刀法違反などで逮捕し、静かな小島村を恐怖のるつばに陥れた大騒動は終わったのでした。



イラスト：田崎 敬修

(参考文献：西会津町史第2巻・通史Ⅱ)

お詫びと訂正

3月号6ページの西中町民図書館の開館時間について、正しくは左記のとおりです。お詫びして訂正します。

火く金午前8時30分〜午後7時
土、日午前8時30分〜午後5時

今月の表紙

今月は、3月1日に行われた西高の卒業証書授与式から。高校生活最後のホームルームでは、同級生や保護者の皆さんへ感謝の気持ちを伝えたり、卒業生から担任の先生へサプライズが行われたりと感動に包まれた式でした。

(8ページに関連記事)

編集後記

町内イベントが通常開催されるようになり、カットせざるを得ない話題もしばしば。なるべく多くの話題を掲載するため今月のまちの話題のページもぎつりになりました。(伊藤)